

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 巧文



■ 日本一のリケジョが誕生しました

近頃は、各分野での女性の活躍がめざましく、特に“リケジョ”と呼ばれる理系女子が話題になることが多く、STAP細胞を発表した小保方晴子さんも記憶に新しいところです。

本市においても、先日発表された「全国児童才能開発コンテスト」において、科学部門の最高賞である文部科学大臣賞（高学年の部）を、厚陽小学校6年生の船林里歩さんが受賞しました。

船林さんは、1年生の時からだんご虫の研究を続け、毎年9月におのだサンパークで開催される「かがく博覧会」の児童生徒科学作品展にも毎年出品しています。今年度は6年間の集大成「めざせだんご虫マスターVI」が本市の審査で特選に選ばれました。会場で作品をご覧になった方もいらっしゃることでしょう。その後、山口県の「サイエンスやまぐち2013」で「全国児童才能開発コンテスト」に推薦され、今回の受賞となったそうです。



◀ 2列目右から2人目が船林さん

本市ではこれまで、山口東京理科大学の協力を得て「かがく博覧会」や大学教員による出前

講座「ほんものの科学体験」などを実施し、児童や生徒に科学の持つ楽しさや、こころときめく環境を作ってきました。今回の文部科学大臣賞の受賞も、その成果の一つと言えるように思います。

今後も、小中学校の授業や高校、大学、企業との連携事業、各種イベントなどを通じて、子どもたちの科学のこころを育み、「科学のまち山陽小野田市」を発信できればと念じています。

■ 転入促進条例をご存じですか

定住人口増加策の一環として、本市では、市外から転入し、新たに市内に住宅を取得した人に転入奨励金をお支払いしています。転入奨励金は、市外からの転入者に対し、家屋部分の固定資産税納付額相当分を、5年間、お返しする制度です。施行後、約2年半経ちましたが、利用者はまだ70人程度です。「固定資産税の5年間免除」は、新たに自宅を持つ人にとって、決して魅力のない制度ではない筈です。きっと本市のPRが十分ではないのでしょう。

そろそろ自宅を持つことを検討している市外にお住まいのみなさん、ぜひ、本市の転入奨励金の制度をご活用ください。そういった方をご存じの市民のみなさんも、ぜひ、その方にこの制度のことを教えてあげてください。本市は、「科学のまち」、「文化のまち」、「スポーツのまち」です。